



「あかがね御殿と加古川」

加古川の南端にある別府港に面してあかがね御殿が、堂々とした威容でたたずんでいます。他に類をみない建造物で、いつのころからか「あかがね御殿」と呼ばれています。別称「多木浜洋館」とも呼ばれています。現在は、国の登録文化財にも登録されている貴重な文化財です。

4階建てのこの洋館は、多木化学の創始者、多木久米次郎氏が、賓客を迎えるための別荘として大正7年(1918)から着工し、昭和8年(1933)に完成させたものです。現在は記念館となっていて会議などに使われています。内部は非公開となっていますが、所定の日時のみ見学会が実施されています。



この建物の西側に多木久米次郎を顕彰する「肥料王」と誤読しそうな肥料主の記念碑が設けられています。この書は、第30代総理大臣齊藤実によるもので、国の登録文化財に登録されています。台座の上には多木氏の銅像がありましたが、戦時中の金属供出によって現在銅像は存在しません。

多木久米次郎氏は、明治22年(1889)別府村会議員、ついで加古郡会議員、兵庫県農政倶楽部会頭、兵庫県農会長、衆議院議員、貴族院議員等の要路を歴任します。

学校関係では、大正9年(1920)別府中学を建てますが、兵庫県当局の要請で寄付することになります。その学校が、現在の県立農業高等学校です。

現在、多木化学株式会社となり、アグリ事業、化学品事業、不動産事業(イトーヨーカ堂加古川店など)、建材事業、石油・ガス事業、運輸事業など多角経営で加古川の優良企業として存在しています。

